

◆文化財

文化遺産の中に福生の歴史を探る



①

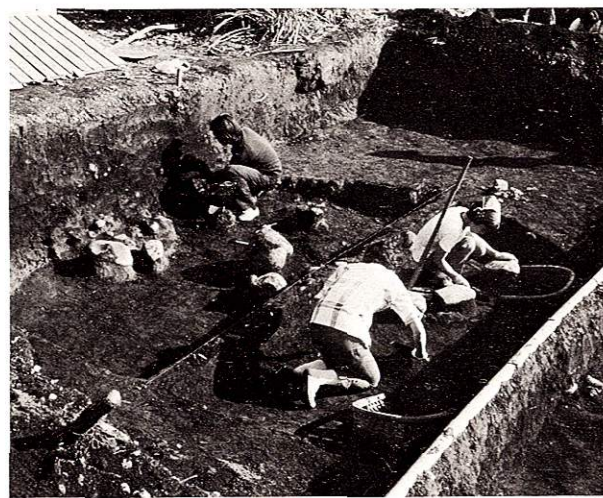
石浜の渡し①

江戸の中頃から大正の初期まで見られた多摩川の渡し場の跡。

この渡しは、その後、堤防の築造や川の流れの変化によって移動している。また、この地は、太平記の武蔵野合戦の中に語られている「石浜の合戦場」跡ともいわれている。



②



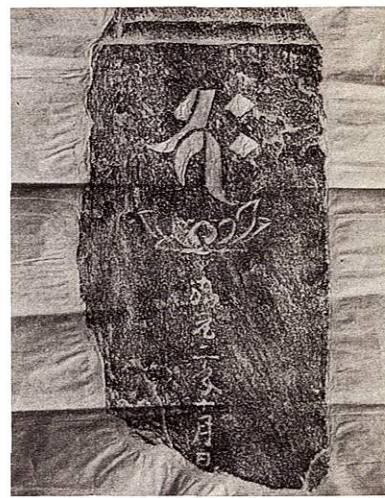
③

長沢遺跡②③

昭和45年、46年の二度にわたる調査で、縄文中期（約4000年前頃）の住居跡や土器類が発掘されている。

この調査で確認されたものは、住居跡が9カ所、土器類が30種類。この遺跡での特徴は、石斧が1回目の調査で300点、2回目の調査で1200点発掘されていることと土偶が一体出土していることである。

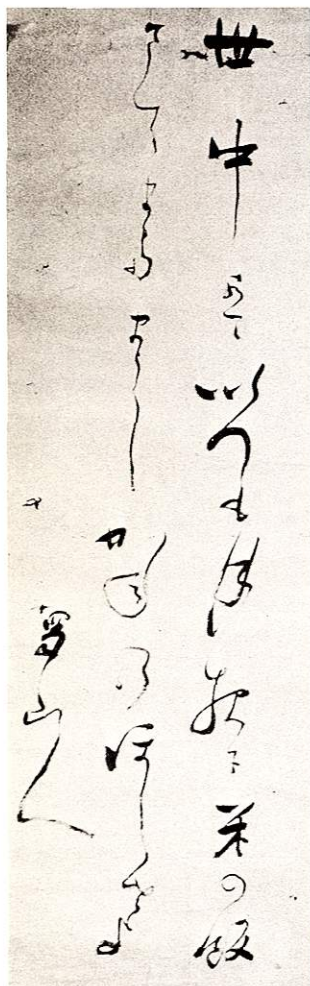
この長沢遺跡の発掘は、縄文中期に祖先が住みついていたことを物語る。



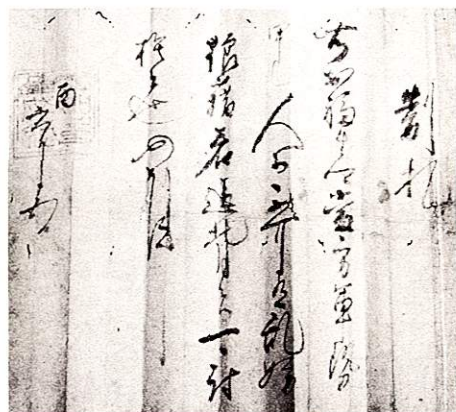
④

板碑④

板石で作った供養塔である。板碑は、中世初期にはじまり、中世期の終りとともに見られなくなるという中世期を物語る代表的なもの。市内に現存する最古のものは、この永昌院所蔵のもの（嘉元2年=1304年）である。



⑥



⑧



⑦



⑨

北条氏照（？～1590年）の制札⑥

太田南畝（蜀山人 1729～1823年）の添書⑧

八王子の滝山に城を構えた北条氏照が、当地方の住人に北条氏の軍勢が乱妨をはたらかないように通達した制札を、後年、当地方を訪れた蜀山人が拝観し、その印象を歌に残している。

歌

世の中は いつも月夜に米の飯
さてまた苦し かねのほしさよ
(石川元八氏所蔵)

石 棒 ⑦

縄文中期頃の石の棒・石棒の型は、無頭式、単頭式、両頭式あるいは瘤状、蛇状、魚頭状のものがあり、石質は緑泥変岩（リョクテイヘンガン）が多い。この石棒は、玉川上水を掘るとき（承応2年・1653年）に出土したとされている。

族長のシンボルとして、あるいは祭祀品として用いられ、後に労働の作業用具として使われたもよう。

(内田満蔵氏所蔵)

熊川神社 社殿⑨

今も残っている5枚の棟札によると、慶長2年（1597年）に再建され、正保3年（1646年）に修繕が行われ、その後も修理がくり返されたと記されている。構造などから見ても室町時代のもので、建物としては、市内に現存する最古のものと見られている。

社殿は、拝殿・幣殿・本殿からなり、本殿屋上には、切妻形銅板葺きの屋根を冠している。

◆施設一覧



水道事務所



市民会館



市役所

市の主な施設

	電話	住所
福生市役所	51-1511	本町5
福生市水道事務所	51-2911	武蔵台2-32
福生市民会館	52-2121	福生2455
福祉会館	52-2121~2	牛浜163
福生図書館	52-2121~2	牛浜163
分館	52-5511	福生3115~1
市民体育館	52-5511	福生3115~1
予防衛生センター	52-5275	本町25
市営水泳場	52-0398	福生3203
給食センター	51-1344	牛浜162

保育園

市立つくし保育園	52-6181	熊川1898
市立すみれ "	51-0884	福生951

小学校

福生第一小学校	51-0046	福生1055
" 第二 "	51-0954	熊川623
" 第三 "	51-0249	牛浜162
" 第四 "	51-0840	福生1290
" 第五 "	52-0256	熊川1805
" 第六 "	51-0753	福生1402
" 第七 "	51-9303	福生3048

中学校

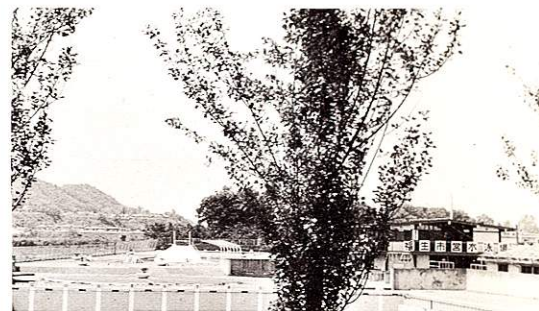
福生第一中学校	51-0321	熊川845
" 第二 "	51-1970	福生1450
" 第三 "	51-9301	熊川2460

学童保育所

タンポポクラブ (第二小学校)	52-0717	熊川559
第三小学校学童保育所	52-2121	牛浜163
第五小学校 "	52-0445	熊川1805
第六小学校 "	52-0446	福生1402

主な官公署

福生警察署	51-5011	福生1664
福生郵便局	51-0901	本町77
福生加美郵便局	52-3642	福生1373
福生牛浜郵便局	52-3641	熊川987
福生熊川簡易郵便局	51-0150	熊川703
福生熊川簡易郵便局	52-3643	熊川161
福生電報電話局	51-0854	志茂210
東京消防庁福生消防署	52-0119	福生1072
東京法務局福生出張所	51-0360	福生899
福生高齢者職業相談所	52-2102	本町142
横田防衛施設事務所	51-0319	熊川1864
福生市商工会	51-2927	本町18
建設省多摩川上流事務所	52-0667	福生3112
東京都西多摩建設事務所 福生秋川工区出張所	51-0969	福生3231
東京都新都市 建設公社福生分室	51-4824	福生1006
福生駅	51-0013	本町137



市営プール



市民体育館



福祉会館

福生市のおいたち

〔古代から江戸まで〕

およそ4500年の昔、縄文中期の人類がこの地に住んでいたことが二度の発掘調査で明らかにされています。

中世に入り集落が発達し、福生郷という地名で呼ばれるようになりますと、多くの武士が土着し、小宮、滝山の城主が支配します。

近世にいたり、5代にわたって関東に威をふるった北条氏も豊臣秀吉に屈します。かわって徳川家康の入国と同時に天領、私領の入会地となり、福生村、熊川村が独立村として代官、旗本に支配され幕末にいたります。

〔明治・大正〕

明治に入り廃藩置県によって、蕨山県6番組に属し、明治5年には神奈川県12区5番組となり、同12年には西多摩郡役所の管轄となります。さらに明治17年には、福生・熊川・川崎・五の神・羽村の5村で川崎村連合戸長役場が置かれます。

その後、明治22年の町村制の施行とともに福生、熊川の両村で組合役場を設けて事務の共同処理にあたり、以後50年組合役場が続きます。この間、明治26年には神奈川県と東京府の境界変更があり東京府の所轄となります。

〔福生町の誕生〕

昭和15年11月10日、福生村、熊川村が合併、町制を施行。人口7,921人。

昭和初期までは、養蚕を主とした農村で、片倉製糸をはじめいくつもの製糸工場がありました。昭和14年、町の北部一帯約200ヘクタールが接収され、陸軍航空審査部と整備学校が設置されると、人口も急増し一躍軍都として発展します。終戦と同時に、この陸軍施設は米軍に接収され、さらに基地面積が拡張され、現在に至っています。

戦後の福生町はこの基地を中心として、基地労務者、サービス業等が激増し、さらに米軍ハウスが約2千戸建てられ、商店街は急速に整備されますが、一方で農業は減少してゆきます。

昭和37年、基地のまちからの脱皮が真剣に考えられ、首都圏整備法による市街地開発区域の指定を受け都市計画をすすめる一方、増大する行政需要に対処し、学校、道路、上下水道など都市施設の整備に力を入れてきました。

〔福生市の誕生〕

昭和43年6月、人口3万人以上をかかえ、市との行政格差に悩む全国33町が「新市制全国期成会」を結成、二年間にわたり地方自治法の一部改正（市制施行の人口要件を3万人以上に改める）につき運動をつづけ、昭和45年3月、第63国会で可決（3年間の時限立法）され、昭和45年7月1日人口38,749人をもって市制を施行しました。

以来、都市施設の整備に力を入れ、健康で、安全で、便利で、快適な生活が営めるまちづくりを旨とし、市政運営をすすめています。



地 勢

面積 10.41km²
 東西 3.6km
 南北 4.5km
 緯度 北緯35度43分
 経度 東経139度20分
 標高 最高143m(武蔵野台1丁目附近)
 最低104m(福生第5小附近)